

背景・目的

市内のチンゲンサイ栽培において、高温期における出荷後のとろけや黄化が課題となっていることから、高温期においても病害や生理障害が少なく、黄化対策として期待される葉色の濃い品種で、かつ、収量性が高い品種について検討しました。

評価のポイント ・部会が定めるL規格基準内の収量性が高いこと  
・高温期であっても障害株が少ないこと ・葉色が濃いこと

結果

<栽培条件> 条間 15cm、株間 15cm、収穫基準は調製後 115g/株以上、草丈 22~28cm  
作期1(播種 6/12、定植 6/24、収穫期間 7/17~29)  
作期2(播種 7/14、定植 7/28、収穫期間 8/21~28)

<主な結果> ※標準品種‘良雅’に比べて優れている項目 ( )

品種	外観	L規格収量 作期1 作期2 (kg/a)	収量性	障害発生	葉色	主な特徴
良雅 (標準品種)		357 408	標準	なし	標準	○生育が早い ・市内の基幹品種
<b>青龍</b>		371 393	同等	なし	<b>濃い</b>	△葉の反りが強い ・葉数が多く葉が細い。基幹品種と株の形状が異なる
ニイハオ・メイ		328 (※)	低い (※)	なし	同等	△草丈が伸びやすい
<b>NX-BP145</b>		390 352	高い 低い	わずか (株元の腐れ、 葉先枯れ)	<b>濃い</b>	○生育が早い ○葉が平滑
MSW-1305		313 468	低い 高い	わずか (葉先枯れ)	同等	○草姿がやや立性 △生育がやや緩やか
<b>常盤御前</b>		435 508	高い	わずか (株元の腐れ)	<b>濃い</b>	○葉が平滑 ・低温期向け品種であり、高温期栽培では病害の発生に注意する必要がある

※作期2の‘ニイハオ・メイ’は、L規格基準である調製後 115g/株になるより早く草丈 28cm を超過した株が多かったことから、評価対象外としました。

結果の活かし方

高温期の栽培では葉色の濃い‘**青龍**’及び‘**常盤御前**’が有望です。‘**NX-BP145**’は作期間で収量にばらつきがありましたが、葉色は濃く葉が平滑であり、有望2品種に次いで高く評価しました。